

おひさま通信

子どもを取り巻く
家族を
大切にしていること

シャイン

シャインは就学前の2歳から6歳までの子が在籍しています。毎日通園の他、保育園・幼稚園を併用しながら通う子も増え、現在では17名の子ども達が元気に通っています。お友達や家族、地域の人に囲まれ、どんな子でもきらきら輝ける力があるそのためにはたくさんさんの体験をさせてあげたい、一人ひとりが好きなことをやりたい！ と考えることを見つけてくれるような環境づくりを心がけています。

また、開所した当初から、子どもを支えると共に、家族も一緒に支えていきたいという考えもありました。お子さんの気になること、心配事や悩みを抱えながら出会う家族に、子ども達のすてきな姿や乗り越えていく姿を見せてあげたい、一緒に共有していきたい、という思いがありました。

母子通園

2歳児入園は母子通園を推奨しています。初めて家から離れて過ごす場所に家族も一緒に同じ空間で過ごすことが、子どもにとって安心感を与え、母を安全基地としながら興味があるものに行き、遊びの世界を広げていきます。

Aちゃんは2歳のお誕生日を迎え、すぐの入園でした。母と一緒に登園し、すんなりと入室することができたのは数日。ちよつとずつ今置かれていく状況に自分で気づき、「イヤだよ、帰ろうよ」と言わんばかりに入室を拒否し、門まで行こうとしていました。入園前の聞き取りで、カップに小さい木の实を入れる遊びが好きと聞いていたので、砂場にあったお水が入った透明のコップをくるくると回して見せると、その様子をじっと眺めはじめ、自分で小石を入れ始めました。



もつと榮しさが続くように、先生（シャインでは職員を先生と呼んでいます）がそつと小さい石を渡すとかップにポトン、ポトンと落としたその様子をじつと眺めていましたそれからさつと気持ちが切り替わり室内に入つて行く様子が見られました。

室内でみんなが集まり、歌を歌い体操をしている姿を見て、Aちゃんは急に泣き出してしまふ事があつたのですが、毎回たつぷりと遊びを楽しんでいくうちに、だんだんと先生やお友達が気になる存在になっていき平行遊びをしたり、お友達の真似をしたりするようになりました。

朝の会で「何しているのかな？」と少し遊んでいる手を止めて覗いてみたり、体操や楽器遊びをしている時に「ぼくもやってみよう！」と子ども達の中に入っていく姿が見られるようになりました。

そうしたお子さんの「楽しそうだからやってみよう」や「みんなと一緒に座ってみよう」と動き出した瞬間を、母子通園では分かちあえる嬉しさもあります。

今では嬉しそうに小走りで登園してきます。お母さんだけでなく、この場所で先生やお友達と遊ぶことが楽しい、といういろいろな興味を抱くようになってきました。

がかかり、もつと人間関係が希薄になることに拍車がかかるのではないかと、子どもを通して育ちあえない問題点も感じていました。

家族同士が部屋に集まることはできなくても、登園の受け入れ時や送迎時、家庭訪問を通じ、家族からの声を聞きとりました。家族で我が子のことを思い、協力しながら同じ方向性を見ている家族もありますが、子育てを一緒にしたいけれど、仕事が忙しい方、家族一緒に暮らしていても子どものことは母（もしくは父）にお任せで、あまり協力的でないなどの声も聞かれました。そこで参観日はあえてお母さんの日、お父さんの日を作りました。

父親參觀

父親参観の計画当初、平日の昼間にお父さんが仕事を休むのには無理があるかなと思っていたのですが想像していた以上に皆さんが来てくださいました。子ども達は嬉しくて抱きついていく子、自分のお父さん



が来ない日は、パパがいなくて泣いてしまう子もいました。普段の生活を見てもらいたいねらいもあつたので、神社や広場までを一緒に散歩しました。室内では、ふれあい遊びをしたり、お父さんが揺らすダイナミックなシーツブランコをしてもらったり、子ども達は大満足です。また自分のお父さん以外に興味を持ち抱っこや肩車をしてもらっていました。また、父の輪の中に、お父さん視点で分かり合える作業療法士に参観日に協力してもらい、子どもと一緒に遊ぶアイディアを伝えてもらいました。

ると、本当は子育てに関わっていき
たいけれど、一歩踏み出せなかった
のかもしれない。お父さんも共に
育てていきたい思いがあることを知

夢や喜びを感じられる社会へ

見て安心した」「僕を見ていて！とア
ピールしながらズボンを履く姿を見
ることができた」などの感想をいた
だきました。母子通園の時も感じて
いた事です。我が子と同じくらい
他児の素敵なところに気づき、ほめ
て下さったり、甘えてくる子を受け
入れてくれたり、子どもを見る視点
が広いな、とすごく感心しています。
父親参観以降、今まで母一人で送
迎も入浴も頑張っていたBちゃん
の家では、ちよつとずつお風呂も送迎も
休みを利用して協力的になったと報
告がありました。そんな姿を見てい

昨年度から少しずつコロナ以前の日常に戻していこう、とシャインはみぬま福祉会の中でも早く活動が緩和されてきました。現在ではゴールデンウィーク企画や親子遠足の再開、お誕生会の招待をしています。懇親会では、シャインを卒園した家族が就学に向けて在園児に助言をしてくださり、家族同士が集まる場も増えてきました。また、心理士による発達検査後に、お子さんのフィードバックや家族の相談の場を設けています。生活スタイルの変化により働いている家族も増えてきたため、SNSで動



画や写真で様子を発信し、お子さんの嬉しい姿、頑張っている姿の報告をし、素敵な姿を分かち合いたいと思っています。

こども家庭庁の施策の一つに、「家庭や子育てに夢を持ち、喜びを感じられる社会をつくること」の一文があります。シャインに初めて入った家庭は、そう思っているのかな、なぜ希望や夢に不安を抱えているのかなと疑問に思っていました。しかし生活背景を知ること、また様々な取り組みを通し、広い視点から気づきを得ることができました。

心配事や悩みを抱えながら出会う家族に、子どもの素敵な姿を伝えていくことで、少しでも緊張していた表情が緩み、気持ちに余裕を持つて過ごしてほしい、悩んだ時は、一人で抱えず一緒に悩んでいきたいと家族支援も子どもの支援と同じくらの熱量で取り組んできました。

シャインは卒園すると、子どもの制度が利用できないからこそ、現在の繋がり大切にしています。将来ライフステージの岐路に立つた時いつでも相談できる場、背中を押してくれる同士や先輩家族の後盾があることで、子どもを取り巻く家族がいつまでも幸せであってほしいと願っております。

シャイン職員 月輪 悦子

母の手からちよつとずつ離れていくと、もうすぐ母子通園も終了です。例年、母子通園からちよつとずつ子どもの手が離れて行く時、どんなことをしたいですかと聞くと、「今まで一緒に過ごしていたので、何をしたらいいいかわからない」とおっしゃる方もいます。それだけ密にお子さんのことを思い、過ごしていたと感服し、一生懸命だったこの時期が何年後かには楽しい思い出になってほしいと思います。

コロナ禍を経験して

2020年、新型コロナウイルスが蔓延し、今まで当たり前になっていた環境を急速に変えなくてはなりませんでした。見えないウイルスから守る為、シャインの入室を子どものにし、幼稚園利用をしている家庭はどちらかにする選択をせざるを得なくなり、今までのにぎやかさから一気に閑散となりました。

新規の家族は、検診も先送り、児童センターや公園に行くことも制限

